



## 植物の種類は、全部でいくつあるの

### 植物の特長は、自分で栄養が作れること

動物と植物を仲間分けするなら、どこがいちばんちがうでしょうか。

植物は、葉などに葉緑素をもっていて、自分で栄養を作ることができるけれど、動物はできない点が、大きなちがいです。葉緑素は、日光の助けをかりて、水と二酸化炭素を材料にし、でんぷんなどの栄養を作ります（これを光合成という）。動物は、自分の体では作れないため、植物や植物の作った実などや、ほかの動物を食べて、栄養をとります。また、たいいていの動物は、自分で動き回れますが、植物は、動けません。

### 仲間分けはむずかしい

身近な木や草花、じめじめした所に生えるコケ、水中の緑色の「も」などは、植物の仲間だとわかります。でも、コンブやノリなどの海そうや、水を緑色ににごらせる、顕微鏡でしか見えないような植物性プランクトンなどになると、植物の仲間なのかどうか、まよいますね。カビやバクテリアなどになると、学者でも、植物の仲間に入れるかどうか、人によって考え方がちがっています。また、池やぬまなどにいるミドリムシのように、しっぽをもっていて動き回るけれど、植物のように葉緑素をもっているという生き物もいます。

### およそ20万～30万種類

こんなぐあいでは、学者によって分類のしかたがちがってくるため、植物の種類がいくつあるかも、ちがってきます。また、新しい種類の植物も、毎年たくさん発見されています。だいたい、植物は、20万～30万種類あるといわれていることだけ、覚えておけばよいでしょう。（監修・矢野 亮）

